

# たまねぎレポート【第426号】



令和5年4月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

3月の平均気温は、全国で観測史上最も高かった。各地の天候は、気温は北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった。日照時間は北・東・西日本の日本海側と北・西日本の太平洋側でかなり多かった。降水量は北・東・西日本の日本海側で少なかった。北海道では、平均気温はかなり高く、月降水量は平年並み、日照時間はかなり多く、月降雪量は少なかった。4月は全国的に温暖傾向であったが、寒暖の差の大きい日が多かった。

気象庁の5～7月の3か月予報では、平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。月別予報は

次の通り。

5月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

## 野菜の市場概況

建値市場の3月の野菜の販売量は、206,264トン前年比98%(前月比106%)平均単価はkg ¥247前年比97%(前月比101%)。市場別には多少のバラツキがあるが、総じては販売量は前年比減、単価は前年比安となっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比では、札幌市場の販売量は前年比106%、平均単価はkg ¥211前年比86%。東京市場の販売量は前年比95%、平均単価はkg ¥266前年比99%。名古屋市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥233前年比95%。大阪本場の販売量は前年比104%、平均単価はkg ¥246前年比94%。福岡市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥188前年比97%となっている。

建値市場の3月の玉葱の販売量は26,537トンで前年比114%、(前月比107%)、平均単価はkg ¥122前年比58%(前月比98%)となっている。北

海物主力で、前年比で北海物が増加し、府県産の早生は生育遅れで減少。輸入物も不作と価格高で減少した。平均単価は総体的には前年比58%の大幅安で前月比では101%で保合で推移した。市場別では、札幌市場の販売量は3,665トン前年比119%、平均単価はkg¥102前年比61%。東京市場の販売量は9,813トン前年比108%、平均単価はkg¥135前年比58%。名古屋市場の販売量は6,509トン前年比113%、平均単価はkg¥114前年比61%。大阪本場の販売量は4,158トン前年比144%の大幅増で、平均単価はkg¥122前年比52%。福岡市場の販売量は2,392トン前年比96%、平均単価はkg¥125前年比57%となっている。

東京都中央卸売市場の3月の野菜の入荷量は、111,367トン前年比95%(前月比107%)。平均単価はkg¥266前年比99%(前月比100%)。旬別では上旬がkg¥270で前年比97%、中旬が¥264で前年比99%、下旬が¥263で前年比102%、となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、タマネギが前年比108%。ネギが106%、サトイモが101%など4品目。入荷が前年比減の品目は、ハクサイが前年比86%、トマト・ナマシイタケが89%、ニンジンが90%。キュウリが92%、バレイショが93%。ホウレンソウが95%など11品目。価格が前年比高の品目は、ニンジンがkg¥156で前年比144%、キュウリがkg¥348で前年比122%、ピーマンがkg¥710で前年比117%、トマトがkg¥430で前年比115%、ハクサイがkg¥87で108%、生シイタケがkg¥992で107%など8品目。前年比安の品目は、タマネギがkg¥135で前年比58%、バレイショがkg149で67%、ネギがkg¥230で73%、キャベツがkg¥85で76%、ダイコンがkg¥90で83%、ナスがkg¥371で93%、レタスがkg¥202で95%など7品目となっている。

## 東京都中央卸売市場の3月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	111,367	95.1	106.9	266	99.0	100.4
た ま ね ぎ	9,813	107.8	105.2	135	57.9	98.5
キ ャ ベ ツ	17,385	96.3	120.6	85	76.2	89.5
は く さ い	6,677	86.3	59.7	87	107.8	138.1
だ い こ ん	8,895	97.1	102.5	90	82.9	89.1
に ん じ ん	6,188	90.2	103.9	156	144.0	123.8
ば れ い し ょ	6,547	93.4	79.7	149	66.6	98.0
レ タ ス	7,027	100.1	117.9	202	95.4	77.4
ね ぎ	4,103	105.5	92.4	230	73.1	90.9
ト マ ト	5,246	88.6	116.9	430	114.8	107.5
き ゆ う り	5,689	92.0	140.0	348	122.1	77.5
か ぼ ち ゃ	991	48.1	108.8	445	246.3	91.8
な が い も	701	80.4	113.4	391	144.1	107.1
れ ん こ ん	915	190.8	97.7	286	41.9	82.0
に ん に く	234	103.5	97.9	799	83.4	95.8

### 玉葱の概況

#### 需要(市場)の動き

##### 東京市場

東京都中央卸売市場の3月の玉葱の入荷販売量は9,331トン前年比108%(前月比105%)。主力は北海物で入荷量は6,988トン前年比115%、占

有率は71%で前年比4ポイントアップ。静岡物は1,624トン前年比127%、占有率17%前年比3ポイントアップ。佐賀物は541トン前年比92%、占有率6%前年比1ポイントダウン。長崎物は363トン前年比98%、占有率4%前年比0.4ポイントダウン。総平均単価はkg¥135前年比58%(前月比99%)。産地別単価は、北海物はkg¥113前年比52%、静岡物はkg¥198前年比68%。佐賀物はkg¥180前年比59%。長崎物はkg¥171前年比58%。となっている。

4月に入って、北海物の入荷は減少傾向となり、荷動きはやや回復した。他方、府県の新物は増加傾向となったが、荷動きは今ひとつで売れ残りが発生した。月半ばからは、佐賀物の潤沢な入荷が続き、量販店では値頃感を強調し特売する店舗が増えた。昨今の卸は大型連休を控え拡販に努めているが、入荷は順調で相場はチリ貧傾向である。北海物は4月の契約物は¥2,350の買付、5月は更に¥200アップになり、新物との価格差が大きく、販売環境は厳しさを増す。

4月1日～20日の玉葱の販売量は8,569トン前年比141%、平均単価はkg¥113前年比46%となっている。長崎物と北海物の増加率が高い。産地別販売量と単価は、北海物は4,523トン前年比158%、平均単価はkg¥115前年比47%。佐賀物が3,063トン前年比136%、平均単価はkg¥107前年比42%。静岡物は332トン前年比142%、平均単価はkg¥113前年比47%。長崎物は322トン前年比166%、平均単価はkg¥101前年比41%。熊本物は119トン前年比65%、平均単価はkg¥152前年比64%。となっている。

### **名古屋市場**

名古屋市中央卸売市場の3月の玉葱販売量は6,509トン前年比113%(前月比116%)で前年比、前月比ともに2桁増となっている。主力は北海物で、

前月に続き北海物主導の販売となっている。北海物は5,397トン前年比124%、占有率は83%で前年比4%アップ。静岡物は679トン前年比86%、占有率10%で前年比4ポイントダウン。愛知物は385トン前年比92%、占有率は6%前年比1ポイントダウン。総平均単価はkg¥114前年比61%(前月比97%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥101前年比63%。静岡物はkg¥190前年比66%。愛知物はkg¥157前年比56%となっている。

4月に入って、地場産地の愛知物の入荷が増加傾向となり、2Lの比率が高く荷動きは今ひとつだったが、静岡物が終了したことで助かった。北海物は、在庫が多く品質劣化を懸念し早期販売に努めた。大型連休を控えた昨今では、北海物は引き合いが弱まり弱含みの販売。愛知物は品質は安定してきたが、産地の希望値が高く、買参人の間では、連休の手当て買いも控え目である。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の3月の玉葱の販売量は4,158トン前年比144%(前月比94%)で前年比大幅増、前月比減となっている。他市場に比べ大幅に増加している。特に、北海物が前年比172%で前月に続き激増している。産地別の販売量は、北海物が2,996トン前年比172%、占有率72%で前年比12ポイントアップ。長崎物は519トン前年比93%、占有率は12%で前年比7ポイントダウン。兵庫物は273トン前年比124%、占有率7%で前年比1ポイントダウン。静岡物は210トン前年比202%、占有率5%前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg¥122前年比52%(前月比99%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥105で前年比52%、長崎物はkg¥152前年比50%。兵庫物はkg¥174前年比59%。静岡物はkg¥199前年比68%となっている。

4月に入って、新物は入荷が増え、相場も値頃となり荷動きもそれなりに回復し、売り残りは少なくなった。北海物は、ヒネ物を求める業務加工筋の需要と入

荷が均衡し、無理をしなくても捌ける様になった(卸の話)。昨今では、新物の入荷が日々増加傾向にあるが、大型連休を控え、仲卸のストック買いがあり、荷動きは順調である。新物はいずれの産地も、球肥大が順調で2Lの比率が高く2Lの販売は厳しくなっている。北海物は事前値決め分の売買が主力だが、人気がなくなり、販売は厳しくなっている。

4月1日～20日の玉葱の販売量は2,805トン前年比156%、平均単価はkg¥102前年比42%。産地別では、北海物は1,347トン前年比289%、平均単価はkg¥104前年比45%。長崎物は646トン前年比126%、平均単価はkg¥99前年比40%。佐賀物は421トン前年比79%、平均単価はkg¥90前年比37%、兵庫物は354トン前年比167%、平均単価はkg¥110前年比42%。となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の3月の玉葱販売量は、2,392トン前年比96%(前月比126%)で、前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売量は1,555トン前年比127%、占有率65%前年比16ポイントアップ。長崎物は424トン前年比76%、占有率18%前年比4ポイントダウン。中国物は196トン前年比52%、占有率8%前年比7ポイントダウン。佐賀物は171トン前年比59%占有率は7%前年比5ポイントダウン。総平均単価はkg¥125前年比57%(前月比98%)で前年、前月比ともに安値となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥116前年比54%。長崎物はkg¥155前年比56%。中国物はkg¥116前年比115%。佐賀物はkg¥148前年比53%となっている。

4月に入って、北海物は契約分主力の販売。新物は長崎、佐賀物が主力となった、JAの指示価格が高く、仕切値を維持すると捌けず、止む無く実勢価格で捌いた。商系物については、荷主に実情を話し実勢価格で販売したが、いず

れにしても荷動きは鈍く、厳しい販売が続いた。此処に来て、数量的には、北海物、佐賀物半々の販売となっている。佐賀物は肥大が進み2Lが多い。大型連休を控え荷動きは順調だが、荷口により品質にバラツキがあり、価格差が生じている。北海物は仲卸の人気離散で販売は厳しくなっている。

4月1日～20日の玉葱販売量は1,693トンで前年比114%、平均単価はkg ¥101で前年比48%。入荷量は前年比2桁増で、価格は前年比半値以下となっている。

#### 4月25日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

##### 【札幌市場】 販売量172トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、L大 ¥2,200～2,100、L ¥2,200～2,100、  
佐 賀 20kgDB2L ¥1,900～1,700、L ¥2,200～2,100、M ¥2,000～1,900。

##### 【太田市場】 販売量282トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥2,500～2,300、L大 ¥2,500～2,200、L ¥2,500～2,300。  
佐 賀 20kgDB2L ¥1,500～1,400、L ¥2,000～1,800、M ¥2,000～1,900。

##### 【名古屋北部市場】 販売量134トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、L大 ¥2,200～2,000、L ¥2,200～2,100。  
愛 知 10kgDB2L ¥900 ～ 700、L ¥1,200～1,000、M ¥1,000～900。  
愛 知 20kgNET2L ¥1,600～1,500、L ¥2,200～2,000、M ¥2,000～1,900。

##### 【大阪本場】 販売量149トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、L大 ¥2,300～2,100、L ¥2,200～2,000。  
兵 庫 10kgDB2L ¥800 ～ 700、L ¥1,000～ 800、M ¥900 ～ 800。  
佐 賀 10kgDB2L ¥800 ～ 700、L ¥900 ～ 800、M ¥800 ～ 700。  
長 崎 10kgDB2L ¥800 ～ 700、L ¥1,000～ 800、M ¥800 ～ 700。  
大 阪 10kgDB2L ¥900 ～ 800、L ¥1,000～ 800、M ¥800 ～ 700。



**【福岡市場】** 販売量186トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,300～2,100、L大 ¥2,200～1,800、L ¥2,200～2,000。

佐 賀 10kgDB2L ¥800 ～ 600、 L ¥900 ～ 600、 M ¥1,000～ 600。

**供給(産地)の動き**

当初、府県の早生産地は、春先の天候が低温・少雨が続いたことで、静岡を始めいずれの後続産地も生育が遅れ、豊作は望み薄と予想されていた。然し、3月後半からは、予想外の適温・適雨に恵まれ、生育が顕著に回復し、4月後半には豊作型に転じた。従って4月1日から20日の出回り量は前年比50%前後の増加となり、市況は予想外に値下りした。府県産は5月の後半から中晩生に移行するが、北海物や輸入物が平年に比べ大幅に減少することで、業務加工向けの原料が品薄高になる可能性が高い。

**府県産地**

長崎産地は、早生の出荷は終盤を迎え、日々減少傾向にある。現在出荷されている主力は、県央の長田地区で品質は良好だが、雲仙・島原地区は終盤で品質は今ひとつである。長崎物は早生主力で中晩生は少ない。

佐賀産地の出荷は、5月が最盛期となるが、前年の4月の高値から4月出荷を狙った品種の作付が増加している。3月前半には豊作が期待薄と予想されたマルチ栽培の早生の作柄も、その後の天候に恵まれ、豊作型に好転し『レクスター』種では反収7～8トンの圃場が多い。既に、マルチ栽培早生の収穫は終盤を迎えているが、此の先露地栽培の早生に移行するが、マルチ栽培に比べると球肥大はそれほどでなく、収穫・出荷量は減少傾向となる。佐賀では栽培品種は多種多様で品種に依る生育格差が大きい。亦、昨今の気温上昇で、病害の発生が目立って来ている。防除は個々バラバラで感染拡大が心配されて

いる。

兵庫の主産地淡路島では、年明けから3月前半までは、寒暖の差が激しく少雨で、生育は遅れ気味であったが、その後は温暖・多雨の天候に恵まれ、4月上旬には強風雨に見舞われ、多少の葉折れが発生したものの、生育は顕著に回復し、昨今では豊作型に好転している。反面、気温高で病虫害の発生が散見され、生産者は防除に懸命である。現在、収穫・出荷中の『レクスター』は肥大過剰で2L主力で反当8トン以上の収量があると言う。後続の『七宝早生』も肥大順調である。昨今の産地相場は、20kg・切り落とし(粗原)で¥1,000に値下がりしているが、此の先¥800以下に落ち込めば、冷蔵貯蔵を考えている加工業者が多い。加工筋では、今年は平年に比べ北海物の終了が早く、輸入先の中国・ニュージーランド等では品薄、価格高が続き、6～7月の原料不足が予想され、品不足に備えてストックを指向する動きにある。

### **北海道産地**

北海物の出荷は終了期となり、産地在庫も流通段階の在庫も少なく、切り上がりは計画より早まっている。既に、次シーズンの栽培期を迎え、各地で定植が始まっている。今年の雪解けは平年より早く、播種・育苗も順調で、総体的には定植は4月20日～5月上旬で平年に比べ1週間程度早い。

### **輸入の動き**

3月の輸入量は速報値で、19,387トン前年比68%。国別では、主力の中国が18,729トン前年比73%。ニュージーランドが258トン前年比25%。オランダが167トン前年比68%。オーストラリヤが120トン前年比47%で、いずれの国からも前年比減となっている。

**中国**、主力産地は雲南省で、既に収穫期は終盤を迎えている。増反と順調な生育で生産増となり、現地価格は値下り傾向が続いたが、世界的な供給不足

で、例年になく欧州等からの買いが入り、韓国からの引き合いも再び強まっていることで、現地価格は上昇に転じている。5月に入ると河南省、江蘇省、山東省と順次大型産地に移行するので、値下りが続く予想されているものの、割高が続くと見ている。現在の雲南省産のオファー価格は、20kg・C&F・剥き玉・\$11.80。皮付き\$10.00の水準である。

ニュージーランド、作付の減反と播種後の天候不順に見舞われ、更には2月中旬の大型台風の被害で、壊滅的なダメージを受けた圃場が多く、減収と品質不良品の続出で、供給量が少なく日本向けの契約は少量に留まっている。現在のオファー価格は、20kg・70～80mm・C&F・¥2,600～2,650で高値が続いている。

### 5月の市況見通し

4月の府県産の極早生の生育は適温・適雨に恵まれ、作柄は予想外の豊作型に好転し、4月の出回り量は予想をかなり上回った。4月の温暖な天候で主力産地の佐賀・兵庫で病虫害の発生も平年より多いが、淡路などでは生産者の懸命な防除で、今の処、大きな被害は避けられそうである。5月前半は普通早生の最盛期となり市況の軟化は避けられないが、5月末からの出荷は順次中晩生に移行するが、中晩生は、貯蔵性があり市況眺めの出荷となることで、市況は堅調な展開になると予想している。（笹野敏和記）